

平成 25 年 12 月 12 日

武蔵陵墓地内に今後営建される御陵の規模に関する追加説明

- 先般発表した「今後の御陵及び御喪儀のあり方について」（平成 25 年 11 月 14 日発表）においては、天皇皇后両陛下の御陵は、両陛下のお気持ちを踏まえ両御陵が寄り添い不離一体の形となるよう営建することとしており、これにより、従来、天皇陵と皇后陵とを隣接させつつも各御陵の独立性を保つために両御陵間に置かれていた樹林地は今後不要となることから、両御陵営建に伴って実質的に必要となる土地の面積は、従来より大幅に縮小されることになった。
- 一方、先の発表において、新たな御陵と従来の御陵の規模については、旧皇室陵墓令がその面積を定め、また、陵籍への登録事項である「兆域(御陵の墳塋部と御拝所を含む区域)」の面積で比較したところであるが、この比較では、今回の検討により御陵の規模が全体としてどれくらい縮小されることになるのかまでは明らかではなかったことから、今般、天皇陵と皇后陵の間の樹林地が今後不要となることによる用地面積の縮小を考慮して、両御陵用として実質的に必要な区域の面積を比較したところである。
- この結果、今回の構想における両御陵用の区域の面積は、約 7,870 m²となり、大正天皇陵及び貞明皇后陵の区域（約 15,500 m²）の 51%、昭和天皇陵及び香淳皇后陵の区域（約 13,500 m²）の 58%となった。
- このように、今回の検討により御陵は大幅に簡素化され、今後の御陵の規模は実質的に従来の半分程度となり、武蔵陵墓地の将来の利用可能性は大きく高まったところである。

なお、新たな天皇陵及び皇后陵は、自然の地形を生かし一体として周囲の樹林地により独立性が維持され静安と尊厳が確保されるとともに、自然とお見上げ申し上げる配置となり、御身位にふさわしい品位ある御陵になると考えている。

【参考】御陵の規模の比較（別図参照）

	今回構想 (A)	昭和天皇・ 香淳皇后御陵 (B)	大正天皇・ 貞明皇后御陵 (C)	A/B	A/C
兆域面積	3,500 m ²	4,300 m ²	4,300 m ²	81%	81%
両御陵用に 必要な区域 の面積	7,870 m ²	13,500 m ²	15,500 m ²	58%	51%